

古賀浄水場廃止と全量受水への移行

古賀浄水場は老朽化と渇水による取水量減少により、多額の更新費用が必要となる現況です。市民の皆様の水道料金値上げを避け、災害時の安定供給と維持管理費削減を図るため、古賀浄水場を廃止し、**令和7年7月1日**から福岡地区水道企業団と北九州の全量受水に移行します。



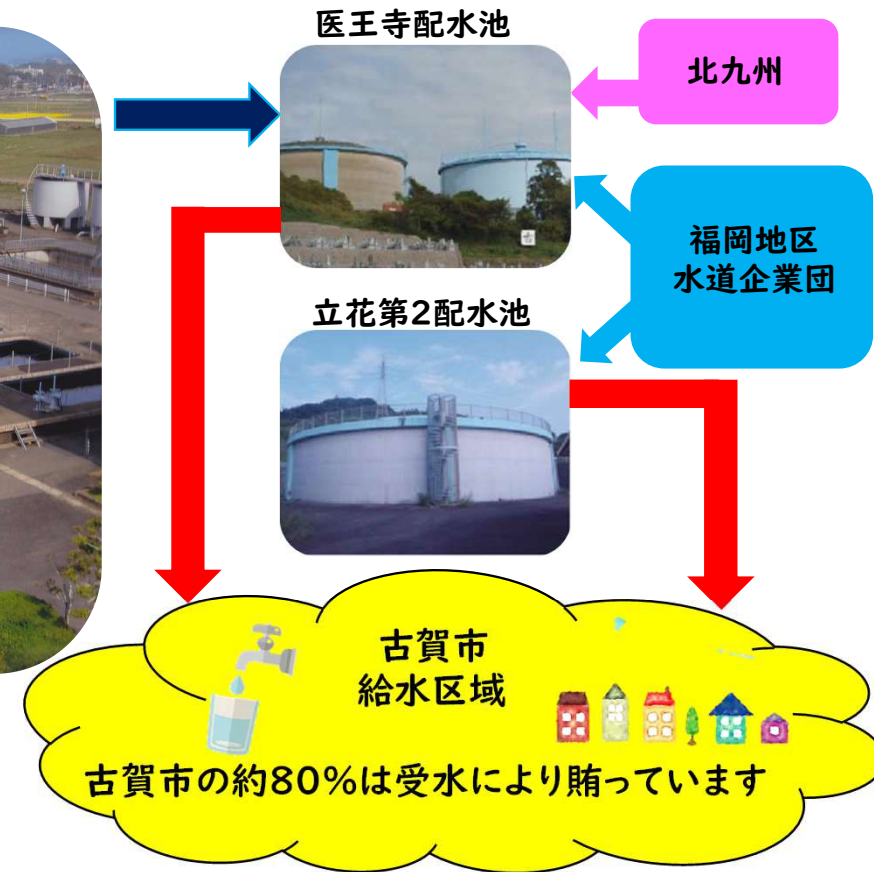
大根川



古賀ダム
雨が少ないと取水量が減る

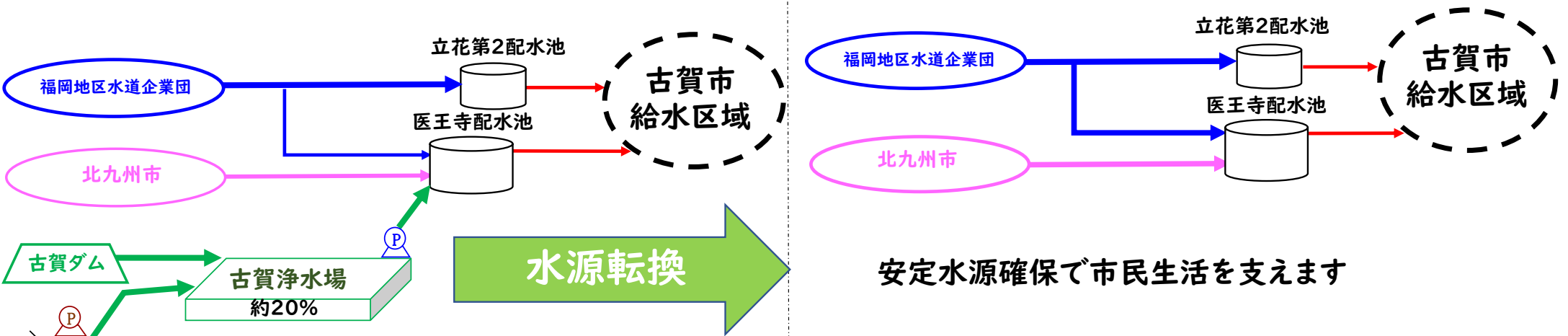


- 所在地：古賀市筵内
- 建設年度：昭和49年
- 施設面積：18,860㎡
- 水利権：4,400㎥
- 浄水量：2,362㎥(R5)



古賀市水源転換の概要図

渇水に弱い自己水源（大根川・古賀ダム）を他団体からの受水に転換しました。



安定水源確保で市民生活を支えます

不安定水源
渇水に弱い

水源別内訳	R5実績	
	現況	将来
R5自己水源浄水量	2,362 ^{m³} /日	0 ^{m³} /日
福岡地区水道企業団	11,600 ^{m³} /日	15,600 ^{m³} /日
北九州市		
合計	13,962 ^{m³} /日	15,600 ^{m³} /日

安定水源
約1,600^{m³}（約2,600世帯分）の
余裕水が確保できます。

古賀浄水場廃止（水源転換）に伴う Q&A

Q これまでの古賀市の水源は、どのようにまかなわれていたのですか？

A 古賀市の水道約80%は、福岡地区水道企業団と北九州市から受水していました。
浄水場でつくられる水（大根川・古賀ダム）は渇水になると水量が減り他団体からの安定した水源に頼っています。

令和5年度の実績では、**自己水源 19.27%**
他団体水源 80.73%（福水企66.86%北九州13.87%）

Q 古賀ダムの水量が不安定なのはなぜですか？

A 古賀ダムの水は、農業用水と水道用水で分かれており、24.5%が水道用です。
R4は渇水により取水量が**251 m³**/2,000m³と水利権の12.5%しか取水出来ませんでした。

自己水源内訳					m ³ /日
	R3	R4	R5	平均	水利権
古賀ダム	1,055	251	759	688	2,000
大根川	1,888	1,633	1,603	1,708	2,400
浄水合計	2,943	1,884	2,362	2,396	4,400



古賀ダム
渇水状況

浄水場の浄水量は、水利権4,400m³に対し3年間の平均水量は**2,396m³**と約54%です。
雨が少ないと水量が減ってしまうため、安定した水の供給が難しい状況でした。



Q 水源転換後の水源内訳はどのようなの？

A すべての水を福岡地区水道企業団と北九州市分を増量して受け入れます。

令和5年度 古賀市水源内訳

配水量	浄水場	北九州	福岡地区 水道企業団
	19.27%	80.73%	
水源転換			
		北九州	福岡地区 水道企業団
		100%	

北九州市用水供給事業 概要

緊急連絡管を活用し、周辺地域への水道水安定供給と北九州市水道事業の効率化を目的としています。
 宗像市、新宮町、福津市、古賀市、岡垣町、行橋市、苅田町に水道水を供給しています。
 主な水源：遠賀川・力丸ダム・ます淵ダム・耶馬溪ダム
 これらの水源から取水された水は、北九州市の浄水場で浄化され、緊急連絡管を通じて各市町へ供給されます。
 緊急連絡管は、災害時などの緊急時にも相互に水を融通できる重要な役割を果たしています。

福岡地区水道企業団 概要

福岡都市圏の安定した水供給のために、多様な水源を確保しています。
 主な水源：筑後川・五ヶ山ダム

筑後川

福岡都市圏の水道用水の約3分の1を供給する、主要な水源です。

五ヶ山ダム

将来の水需要の増加や渇水に備え、新たな水源として開発されました。

海水淡水化施設

「海の中道奈多海水淡水化センター」では、気象条件に左右されない安定した給水を可能にしています。



Q 自己水源を無くしたら、災害時に水が出なくなるの？

A 古賀市には、災害時に利用できる**北部福岡緊急連絡管**が整備されています。
そのため災害時でも安心安全な水を供給することができます。

Q 災害時の水の確保は出来るの？

A 古賀市の配水池には、市民の皆様が数日間生活できるだけの水を確保しています。これにより、災害時でも安心して水をお使いいただけます。

北部福岡緊急連絡管



災害時は、古賀市の真ん中を横断している北部福岡緊急連絡管を利用して、一日に必要な水を確保できます。



医王寺配水池

4,600m³×2池=9,200m³



立花第2配水池

2,800m³



災害時も安心



Q 古賀浄水場を廃止した場合、水道料金は安くなるの？

A 水道料金の値下げは難しい状況ですが、将来的な値上げ幅を抑えることは可能です。
具体的には、浄水場を廃止し、その費用を老朽化した水道管などの施設更新に充てることで、長期的な維持管理コストを削減できます。
これにより、将来的な水道料金の値上げ幅を最小限に抑えることが期待できます。

Q 蛇口から出る水は変わるの？

A ご家庭から出る水は、今までどおり水道法に基づく水質基準に適合した安全な水を供給します。

Q 廃止に向けて、工事は発生するの？

A 他団体からより多くの水を送るための水道管の工事が発生します。

Q 廃止した浄水場跡地はどうするの？

A 地域のニーズや利活用方法を慎重に検討しながら決定していきたいと考えています。



古賀浄水場廃止と水源転換について

古賀浄水場は、川やダムからの水を浄水処理する施設ですが、老朽化の進行がひどいことと、近年の渇水により取水量が不安定なことから、令和7年度に古賀浄水場を廃止する事にしました。

水源転換 安定供給

自己水源（大根川・古賀ダム）の取水を他団体からの受水量を増やすことで水源転換いたしました。
これにより、施設の更新や維持管理費の削減を実現しました。

更新する場合は 多額の 更新費用 が必要

更新には約32億円の建設費がかかります。
浄水場を廃止することで、将来的な水道料金の値上げを抑えることができます。

災害時の 対策

北部福岡緊急連絡管を利用し、災害時でも安定した水の供給を確保します。
地震に強い管を使用しているため、災害時でも安心です。
北九州⇄古賀⇄福岡

今後も、安全安心な水道水の供給を続け、古賀市の発展に貢献していきます。

